

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104351		
法人名	有限会社 らくてん		
事業所名	グループホームかわびら (ユニット1階)		
所在地	〒852-8143 長崎県長崎市川平町1199番地		
自己評価作成日	平成21年12月7日	評価結果市町村受理日	平成22年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5-3 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成22年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事をおいしく食べることに力を入れており、特に誕生日やおせち料理・ひな膳等の季節の祝膳は入居者の皆さんに喜ばれています また身体を動かしたり、外へ出掛ける事を大切に考え、日常の歌や体操の他、夏祭りや敬老会等の行事を行い、お花見やぶどう狩りには皆さん一緒にマイクロバスで出掛けています そして近くには内科・歯科・整形外科・皮膚科等各種病院があり、体調の変化に応じて受診や往診等の協力体制が出来ており、安心して暮らして頂けるよう努めております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者の状況をすぐに書き留められるように手帳等を持ち歩いており、生活記録に記入する際に利用している。生活記録に利用者の介護計画のコピーを綴り、介護計画の目標に沿った内容については目標の番号を記入し、モニタリングの際に利用している。協力医の24時間体制の支援の下で看取りの実績があり、職員間でもターミナルケアについての勉強会を行っている。各利用者の入浴マニュアルを作成しており、風呂場に設置しどの職員でも同じ介助が出来るようにしている。災害対策については消防立会の訓練の他、月1回自主訓練を行っており職員全員が実際に消火器を使用した訓練や応急手当の研修を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティングで理念を唱和して一日のケアの取り組みを確認し、笑顔と挨拶を大切に、心穏やかに暮らして頂けるような雰囲気作りに努めています	ゆっくり生活しながら、みんなで輪を組んで生活していけるようにとの思いで「心穏やかな暮らしがいつまでも」という理念を作成している。散歩時の挨拶や保育園との交流会等を通して、地域密着を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時は地域の方と挨拶を交わし、毎年近所の方から柿を頂き入居者の皆さんと一緒に干し柿作りをします 毎月続けている保育園との交流会や、大学生ボランティアさんの来訪も入居者の皆さんに喜ばれています	自治会に加入し、ふれあいセンターでの行事への参加やホームでの行事に地域住民に参加してもらったり、月に1回程度保育園との交流会がある。運営推進会議等の際に地域の行事の情報を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、自治会長さんや民生委員さんから地域の実情をお聞きし、情報交換したり、高齢者のインフルエンザの対応等について報告を行っています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご入居者の生活の様子や各種行事の報告、災害対策や感染症対策、外部評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、頂いた意見をサービスの向上に活かすようにしています	運営推進会議を年6回開催しているが、2ヶ月に1回の定期的な開催ではない。運営推進会議では外部評価の結果や改善計画報告を行っている。市の職員や民生員、自治会長等に運営推進会議に参加してもらっている。	運営推進会議の頻度が概ね2ヶ月に1回の開催となるような取組に期待したい。また改善計画について報告だけでなく、参加者と一緒に計画を立てていけるような取組に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際には必ず市役所の方に来て頂くようにし、ホームの近況を伝え助言を頂くようにしています	市のすこやか支援課や障害福祉課に、わからないことがある際には連絡を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含め身体拘束はしていません 玄関先での日光浴など安全に楽しめるよう見守りを行っています 今後職員研修などにより、理解を深めていきたいと思ひます	玄関は夜間のみ施錠である。身体拘束についてホーム内外での研修を通して、何が身体拘束に当たるかを職員間で共有し、身体拘束を行わないケアを実践している。市に依頼して身体拘束の研修を行うことを検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待をしないことはもちろん、言葉遣いにも気をつけています 今後は高齢者虐待防止関連法についての研修も行き、理解を深めていきたいと思ひます		

グループホームかわびら(ユニット1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム連絡協議会関連の勉強会に参加しています 今後は職場内でも研修を行い、制度の理解を深めていきたいと思っております		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は必ず来訪して頂き、契約・改定等の要因と結果を説明し、納得された場合のみ確認印を頂くようにしています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者やご家族が気軽に意見や要望等を出せるように働きかけ、玄関に「ご意見箱」を設置し、率直な意見を出せる環境作りに努めています また頂いた意見を運営に反映させるよう努めています	苦情要望の受付機関については入所時に説明している。意見箱を設置しているが利用は無く、直接職員に伝えることが多い。家族会に職員も同席していたが、今後は家族のみで話し合う時間を設定する予定である。	家族が意見をより出しやすく出来るよう、家族会時に家族のみで話し合う時間を設けることに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議の中で、意見を吸い上げ反映に努めています	全体会議やユニット会議の際に、勤務上の要望や手摺りの設置等ホームの環境改善について職員が意見を出している。管理者と職員が年1回面談を行うようにしており、職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の希望による有給休暇の取得を勧め、労働時間の調整を行い、給与は役職に基づいて査定をしています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム長は職員から提出された「一年間の取り組み」を基に、各自の希望する研修や資格の取得の機会を確保するよう努めています また研修受講者は全体会議にて報告し、全職員で共有するようになっています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を通し勉強会を行っています また同業者との訪問交流を積極的に行うことで情報を交換し、サービスの質の向上に取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は特に気掛けてお声かけをし、ご本人の思いをよく聴くようにしており、入居者の輪の中へ入れるよう支援しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の面会時等に、ご入居者の生活の様子をお伝えするとともに、ご家族からも不安に思っている事や要望等をお聴きして、信頼関係を築けるよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族からの聴き取り、アセスメントにより、必要としている支援を見極めるよう努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	都度声かけと説明によりご入居者の理解を求め、職員もご入居者から多くのことを学ばせて頂きながら、暮らしを共にする関係作りに努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には日頃からご本人の生活の様子を詳しく報告し、ご家族の協力を得ながら一緒にご本人を支えていく関係を築けるよう努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が入居前まで生活されていた家のご近所の方やお友達が来訪の折は、ゆっくりくつろげるように配慮し、ご家族の協力を得ながら馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めています	入所時に生活歴について家族や本人から意見を聞き取り、職員間で共有している。面会時間は定まっているがそれ以外の時間も面会可能であり、利用者の自宅の近所の人や踊りの仲間等がホームを訪問している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士が関わり合い、支え合って暮らせるよう、職員はご入居者同士の関係を把握し、必要に応じて間に入り支援に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも電話や手紙 年賀状の交換、入院のお見舞いや入居先の施設訪問を行い、亡くなられた方に対しては、お墓参りや仏様参りを行っています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が中心となり、聴き取りやアセスメントにより、ご本人の思いや意向の把握に努めています	センター方式を活用し担当職員が利用者の不安や要望を聞き出し、カンファレンス時に他職員に説明している。表現が困難な利用者の場合は筆談やジェスチャー等で意思の疎通を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの聴き取りや入居前の自宅訪問等により、生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者一人ひとりの状態を、毎日のバイタルチェックやミーティング等により情報を共有し、現状の把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の希望を基に、必要な関係者と話し合い、介護計画を作成しています	利用開始時のアセスメントやカンファレンス等、本人・家族の意向を反映して介護計画を作成している。生活記録の介護計画の目標に係わる内容を、3ヶ月に1回のモニタリング時に活用している。特変時以外は6ヶ月に1回カンファレンスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を基に、日々の様子やケアの実践・気づき等を個別の生活記録に記入し、情報を共有しながら実践や計画の見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて整形外科医のリハビリ指導や言語聴覚士による嚥下指導、歯科医による口腔ケアの指導等が受けられるよう、各種医療機関との連携により柔軟な支援ができるよう努めています		

グループホームかわびら(ユニット1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム周辺の川や花、みかん等を置いている無人販売所や店等を日常の散歩や買い物等に活かし、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族が安心して適切な医療を受けられるよう、主治医との連携に努めています	利用開始時にホームのかかりつけ医を利用するかどうか同意を得ており、利用開始前からの医療機関を利用したい場合も利用可能である。家族が受診を支援する際には診察内容や次の受診日についての報告がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師の訪問があり、ご入居者の健康面についての情報を共有し合い、適切な受診につなげられるよう努めています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入退院時は、安心して治療が受けられ早期に退院できるよう、面会ノートを活用してご家族との情報交換に努め、病院関係者との情報交換を行っています また必要に応じてホームの主治医を通じて入院先の担当医との連携をとっています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居当初に、重度化した場合や終末期のあり方について意向を確認し、重度化に伴い主治医の指導をうけながら、ご本人 ご家族 ホーム長との話し合いを密に行い、支援に取り組んでいます また職員間でターミナルケアについて話し合いを重ねています	入所時にターミナルケアについての同意を取り、家族との話し合いを利用開始後早期に行うようにしている。かかりつけ医の24時間協力体制の下で看取りの経験があり、職員間でも看取りについての勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、応急手当や初期対応の研修を行っています 定期的に訓練をしていきたいと思えます		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えて、年1回消防署の指導の下に行っている訓練の他、定期的にご入居者職員で自主訓練を行い、自治会長さんを始め近隣の皆様との協力体制を築いています	消防立会の訓練を年1回夜間想定で実施しており、月1回自主訓練も行っている。職員全員が消火器を使った訓練や応急手当の訓練を行っている。非常用食料等の物品も準備されている。緊急時の避難場所を決めており、共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者の尊厳やプライバシーを損ねないような言葉かけに努め、特に排泄の場面での対応には注意を払っています	トイレ誘導時に大きな声で声掛けしないことや丁寧な言葉遣いを心掛けている。個人記録は事務所内で保管している。職員ミーティング時は利用者の名札を利用し誰の話をしているか他の利用者にわからないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者が自分の思いや希望を表出できるよう、「どうですか」「どうしましょうか」というような働きかけをするように努めています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、食事の時間 寝る時間 その日の過ごし方等、希望にそって支援するよう努めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好きな服を選んで着られるよう、必要に応じて支援をしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者一人ひとりの力に合わせて、一緒に準備や食事 片付けを行い、食事が楽しめるように支援しています	利用者と職員と一緒に食事を作る日は週1回と決まっているが、他の日も食材の準備や後片づけは利用者に手伝ってもらっている。献立は作成しているが、利用者の希望に応じて変更している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェックを行うとともに、一人ひとりの状態に応じて食事の形態を食べやすく工夫し、必要な栄養と水分が摂れるよう支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や力に応じて必要な口腔ケアを行い、清潔が保持できるよう支援しています また義歯の調子が悪い時など、出来るだけ早く歯科受診につなげ、おいしく食事が摂れるよう支援しています		

グループホームかわびら(ユニット1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや力を把握して、早めの声かけや必要な介助を行うことにより、トイレで快適な排泄ができるよう支援しています	退院後すぐはおむつを使用する場合もあるが、トイレ誘導等行う中で徐々にリハビリパンツ等へ移行している。排泄チェック表の利用や利用者の表情等を職員が確認し、声かけ・誘導を行いトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を提供し、しっかり食事や水分を摂り、体操や散歩等で身体を動かすことを支援し、便秘の予防に努めています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応曜日を決めています。順番は一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、拒否のある方には毎日声をかける等、入浴が楽しめるよう臨機応変に対応しています	入浴日は週2回と決まっているが、入らない利用者には毎日声かけを行っており、入浴日以外の入浴も可能である。各利用者の入浴マニュアルを風呂場に置き、どの職員でも同じ介助が出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度や光、寝具の調節等、気持ちよく眠れるよう支援しています。また安心して眠れるよう、必要に応じて声かけやスキンケア等を行っています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬が確実に服薬できるよう必要な支援を行い、症状の変化に応じて主治医に報告し、指示を仰ぎます。便秘薬や寝付きを良くする薬は、主治医の指示の下、その日の状態に応じて調節しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かして、食事作りや洗濯物たたみ等の家事を一緒に行ったり、好みに応じたレクリエーションや気分転換に日光浴や散歩等ができるよう支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそって、散歩や買い物等に出掛けられるよう支援に努めています。また地域のボランティアさんの協力でドライブへ出掛けたり、ご家族と一緒に外出ができるよう支援しています	花見や外食等、月1回程度はドライブに行っている。車椅子の利用者も体調不良な場合を除いては外出頻度は変わらず、近くへの散歩等行っている。ボランティアに協力してもらい、外出することもある。	

グループホームかわびら(ユニット1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じてお小遣いをホームで預かり、買い物や外出等、ご本人が要る時にはいつでも使えるよう支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関の公衆電話を自由に使えるようにしており、一人ひとりの力に応じて電話をかける支援をしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花やポスター 飾りつけ等、季節感を感じられるよう工夫し、居間や食堂には床暖房を入れ、ソファやクッション 膝掛け等、居心地よく過ごせるように支援しています また食堂からは外の風景が良く見えるようになっています	利用者は日中はほぼ居間のソファに腰掛けており、膝掛けや床暖房で心地よく過ごせるよう支援している。季節感が感じられるように季節の花を飾ったり、七夕やクリスマス等の行事の際には飾り付けを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先のベンチで外を眺めたり、それぞれの居室や居間で独りになれたり、気の合う仲間と過ごせるように居場所づくりに努めています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや鏡台 ソファ等、ご本人やご家族と相談しながら、馴染みの家具を置いたり、居心地よく過ごせるような支援をしています	居室のベッド下には、利用者が転倒しないようマットを設置している。家具等の持ち込みについては、火気の物やカミソリ等以外について制限は行っていない。利用者や家族の要望に応じて、家具の配置替えを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に名前と絵を貼り、トイレは大きく表示する等、わかりやすいように工夫しています		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104351		
法人名	有限会社 らくてん		
事業所名	グループホームかわびら (ユニット2階)		
所在地	〒852-8143 長崎県長崎市川平町1199番地		
自己評価作成日	平成21年12月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>食事をおいしく食べることに力を入れており、特に誕生日やおせち料理・ひな膳等の季節の祝膳は入居者の皆さんに喜ばれています また身体を動かしたり、外へ出掛ける事を大切に考え、日常の歌や体操の他、夏祭りや敬老会等の行事を行い、お花見やぶどう狩りには皆さん一緒にマイクロバスで出掛けています そして近くには内科・歯科・整形外科・皮膚科等各種病院があり、体調の変化に応じて受診や往診等の協力体制が出来ており、安心して暮らして頂けるよう努めております</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>
---------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心穏やかな暮らしつまでも」という理念を毎朝唱和し、実践に努めています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時は地域の方と挨拶を交わし、毎年近所の方から柿を頂き入居者の皆さんと一緒に干し柿作りをします 毎月続けている保育園との交流会や、大学生ボランティアさんの来訪も入居者の皆さんに喜ばれています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、自治会長さんや民生委員さんから地域の実情をお聞きし、情報交換したり、高齢者のインフルエンザの対応等について報告を行っています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご入居者の生活の様子や各種行事の報告、災害対策や感染症対策、外部評価への取り組み等について報告や話し合いを行い、頂いた意見をサービスの向上に活かすようにしています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際には必ず市役所の方に来て頂くようにし、ホームの近況を伝え助言を頂くようにしています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	細やかな声掛けで不安にならないよう、また危険が無いよう見守り、車椅子の方も自由に動けるように見守りを行っています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いや接し方など、職員間で常に連携を取っており、毎月ユニット会でケアを確認しています		

グループホームかわびら(ユニット2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム連絡協議会関連の勉強会に参加しています 今後は職場内でも研修を行い、制度の理解を深めていきたいと思っております		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は必ず来訪して頂き、契約・改定等の要因と結果を説明し、納得された場合のみ確認印を頂くようにしています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者やご家族が気軽に意見や要望等を出せるように働きかけ、玄関に「ご意見箱」を設置し、率直な意見を出せる環境作りに努めています また頂いた意見を運営に反映させるよう努めています		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議の中で、意見を吸い上げ反映に努めています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の希望による有給休暇の取得を勧め、労働時間の調整を行い、給与は役職に基づいて査定をしています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム長は職員から出された「一年間の取り組み」を基に、各自の希望する研修や資格の取得の機会を確保するよう努めています また研修受講者は全体会議にて報告し、全職員で共有するようにしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を通し勉強会を行っています また同業者との訪問交流を積極的に行うことで情報を交換し、サービスの質の向上に取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が従来 of 生活環境を大きく変えることなく、安心して生活が送れるよう話し合いを重ねながら随時改善 対応をするよう努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	各入居者毎に担当を決め、担当職員が中心となってご本人やご家族の希望等を聴くように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族からの聴き取りにより必要とされている支援を見極め、必要に応じて医療機関におけるリハビリの紹介等、随時行っています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者の日常生活における介助だけではなく、共に買い物 料理 洗濯等の家事を行いながら、会話を楽しみ、ご本人の人生を垣間見る一助にしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者の様子や希望等は全てご家族に連絡し、ご家族と一緒に相談し対応していくよう努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、ご入居者の懐かしい場所や人との連絡をとり、触れ合う機会が持てるように努めています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の共有する時間を持てるように、食事やおやつの時間、また談話やレクレーション等一緒に過ごせるよう支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも電話や手紙 年賀状の交換、入院のお見舞いや入居先の施設訪問を行い、必要なサービスの情報を提供する等、相談や支援に努めています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々人の希望に添えるよう努め、困難な場合はご本人と十分話し合い、あらゆる方法を検討模索しています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らし方や生活環境を損なわないように、生活歴の把握に努め、介護計画の検討を行っています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の情報を共有し、日々の変化を見逃さないよう努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者中心にご本人の困りごとや希望を把握し、ご家族や職員、また主治医等必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成しています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や連絡帳を活用し、情報の共有に努め、介護計画の実践と見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて整形外科医のリハビリ指導や歯科医による口腔ケアの指導等が受けられるよう、各種医療機関との連携により柔軟な支援ができるよう努めています		

グループホームかわびら(ユニット2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム周辺の川や花、みかん等を置いている無人販売所や店等を日常の散歩や買い物等に活かし、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週主治医の往診があり、急変の場合も24時間連絡体制が出来ており、指示を仰いで対応しています		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師が来所し、ご入居者の健康チェックを行い、職員と気づきを交換し合い、適切な受診や看護を受けられるよう支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入退院時は、安心して治療が受けられ早期に退院できるよう、面会ノートを活用してご家族との情報交換に努め、病院関係者との情報交換を行っています また必要に応じてホームの主治医を通じて入院先の担当医との連携をとっています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居当初に、重度化した場合や終末期のあり方について意向を確認し、重度化に伴い主治医の指導を受けながら、ご本人 ご家族 ホーム長との話し合いを密に行い、支援に取り組んでいます また職員間でターミナルケアについて話し合いを重ねています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、応急手当や初期対応の研修を行っています 定期的に訓練をしていきたいと思えます		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えて、年1回消防署の指導の下に行っている訓練の他、定期的にご入居者職員で自主訓練を行い、自治会長さんを始め近隣の皆様との協力体制を築くよう努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いで接し、他言をせず、人生の積み重ねをされた先輩であるということを思いながら対応をしています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	細やかな声掛けを行い、会話中でのご入居者の思いを記録し、職員全員が共有でき、いつでも意思疎通が出来るように努めています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者の体調を見ながら、会話を通して希望にそって支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と協力して、季節ごとの衣服や好きな衣服を準備するようになっています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けやお茶汲み、下膳等を一人ひとりの力に合わせて職員と一緒にして頂いています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の希望や体調に合わせて食事量を加減し、必要に応じて食事形態を刻みやミキサーにかけて提供しています 水分摂取を勧め、必要な方は量を測定しながら適度な水分摂取ができるよう支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、義歯洗浄 うがいの声かけを行い、必要な方は側で見守り、声かけや介助を行っています 夜間はポリデント水に義歯を浸けて洗浄しています		

グループホームかわびら(ユニット2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンにそって早めに声かけを行い、出来る限りトイレで排泄できるよう支援しています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や果物 芋や食物繊維の多い食品等を工夫すると共に、体操や腹部マッサージ等を行い、便秘の予防に取り組んでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっていますが、行事等で入浴が出来ない日は代替日を設ける等配慮し、個々の入浴マニュアルを基に温度や洗い方等好みに応じて支援しています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家族と協力して軽くて温かい寝具を用意し、居室の温度調節や、声かけ スキンシップ等により、安心して眠れるよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調変化時は医師に指示を仰ぎ、ご本人の力に応じて飲みやすいよう錠剤を散剤に替えたり、便秘薬の調節を行っています また個々の容器を用意して渡す前にもう一度確認し、確実に服薬できるよう努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かして、花生けや新聞紙でのごみ袋作り、野菜の皮むきや干し柿作り等役割を持って頂き、気分転換にコーヒーを飲んだり散歩に出掛ける等の支援をしています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームでは季節ごとに花見やぶどう狩り、外食等のドライブに出掛け、個別にはご家族や地域のボランティアさんの協力で墓参りや外食、ドライブ等に出掛けられるよう支援しています		

グループホームかわびら(ユニット2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に応じてお金を所持し、またはホームで預かり、必要時に使えるよう支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける時、必要に応じて番号を読む・押す等の手伝いをしたり、年賀状を書く手伝いをする等の支援をしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房や床暖房での温度調節や加湿・換気・明るさ・清潔の保持等、居心地よく過ごせるよう配慮し、季節の花を生けたり、職員の声のトーンにも気を配っています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は居室でくつろいだり、食堂には自由に集い、コーヒーを飲んだり、雑談やテレビ観賞等思い思いに過ごせるよう工夫しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談して、これまでの生活が急に変わらないように、使い慣れた家具を持ち込み、使いやすい配置にして、希望によりお位牌やご家族の写真を置く等、居心地よく過ごせるよう工夫しています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレに絵と字でわかりやすく表示しています また少しの段差にはガムテープを貼り、必要な場所に手摺を設置し、動線を確認する等工夫しており、車椅子の方でも自分で自由に移動が出来るようにしています		